指導計画案

時限	導入	展開	まとめと発展
指導上の重点目標	1　俳諧・俳句を言語文化の流れとして理解させる。 2　「俳句の英訳」を読んで英語の俳句を鑑賞させる。	1　英訳された俳句を改めて日本語に訳し、その違いについて考えさせる。	
学習活動	①　俳諧と俳句が言語文化として連続したものであることを確認する。知技 ②　「俳句の英訳」（二八三）を通読する。 ③　「かれ枝に…」（二七六・2）の句について学習した内容を確認する。 ④　ワークシートと振り返りシートを配布する。	①　「俳句の英訳」を読み、ブライスの英訳と日本語の原句との違いを確認する。知技 ②　英和辞典を使って、ブライスの英訳を日本語に訳し直す。主態 ③　グループを作り、それぞれの日本語訳と、「俳句の英訳」本文中の解釈の共通するところ、違うところを比較し、話し合う。主態 ④　③の訳と原句を比較し、十七音の句の中に、文字数以上の表現の広がりがあることを確認する。知技・思判表 ⑤　和英辞典を使って、ブライスの英訳とは異なる英訳を考える。知技・思判表	①　振り返りシートに記入させる。
指導上の留意点	①　二七六～二八一頁の俳諧・俳句や「単元の言語活動2」の序文を参考に俳諧と俳句が言語文化として連続したものであることを理解させる。 ②　英訳する際には、単純に日本語から英語の言葉に置き換えるのではなく、原句の意図を表現する工夫がされていることを理解させる。	③　「俳句の英訳」本文中の解釈は、「秋の一日がとっぷりと夕暮れてきた、ふと気がつくと烏が枯れ枝にとまっている」。 ④　助動詞「けり」の働きによることを確認させる。	